

NPO・大学のサポートによる養護学校 「夢・ひろがりネットワーク」の実践

伊藤 真二*・天野 昌和**・下村 勉***・須曾野仁志***・田中 啓勝****

障害児・者は様々な理由により、その活動の場が限定されたものになりがちである。インターネットを利用して時間的・地理的な制約を受けることなく生き生きとした交流を展開できないかと考え、養護学校を中心とした、養護学校と校区内の福祉的就労施設（作業所・授産所等）のネットワークづくりの実践を行った。また、ネットワーク構築・運用におけるNPO団体と大学のサポート体制のあり方についての検討も行った。およそ1年あまりの実践の中でHP作成・交流会を持ち、参加者間の交流を促進することができたことや、WEB上での交流にとどまらず、イベントなど直接交流の場を持つことができ、一定の成果をあげることができた。ネットワークづくりは、今後も発展・継続していくことになるが、中間のまとめとして報告する。

キーワード：障害児・者、養護学校、インターネット、ホームページ作成、支援、ネットワークづくり

1. はじめに

一般的に子どもたちは健常であれば、地域の中で育ち、成長するに従って生活の場が広がり、社会的視野が広がっていくというプロセスを経て成人していく。しかし、筆者の勤務する知的障害児対象の養護学校玉城わかば学園（以下、わかば学園）で学ぶ子どもたちは、居住地と離れた場での学習が中心となっている。そのため、社会的体験の機会は限られたものとなっており、地域社会との接点が乏しく、関わりが持ちにくい状況がある。本来、経験の中で身につけていくべき事が、その機会を逸することで身に付かないままになってしまうおそれがある。

また、卒業後はその障害が理由となり、一般企業への就労が困難で、進路先として小規模授産所や更生施設等、福祉的就労と呼ばれる場を選択する機会が多い。一般就労した場合に比べて、ごく狭い範囲内での人間関係が中心となり、

社会との接点がさらに限定されたものになってしまう。そのことにより、社会的発達の芽を摘んでしまうことが懸念される。

さらに、学校や地域の人々の養護学校や授産所に通う人びとに対する理解も不足しがちで、そのことが障害児・者への偏見に繋がりがかねない。それらの問題を解決するためには、従来の養護学校と授産所などの狭い範囲内での繋がりだけではなく、外部との交流を活発にして、相互理解を深める必要がある。しかし現実には、お互いの基本的な情報が不足しているために、気軽に交流を行うことが日常化されていない。

このような状況を改善するために、インターネットという世界中に広がったネットワークを利用することで、養護学校に通う子どもたちや知的障害をもった人びとが置かれてしまいがちな閉じた社会から開かれた場とのコミュニケーションを持つための効果的なツールとしての利用方法が探れるのではと考えたのがこの実践のスタートポイントである。

パソコンを単に学習ツールや情報収集ツールとしてみてしまう限り、それは人間である教師の代替・あるいは補助をする機械にすぎないが、コミュニケーションツールとしてみれば、ディ

* 三重県立養護学校玉城わかば学園
** 四日市市立西朝明中学校
*** 三重大学教育学部附属教育実践総合センター
**** 三重大学教育学部技術科教室

スプレイの向こうには生身の人間がいることになる。デスクの上におかれた小さなパソコンが無限のひろがりを持つ可能性を持っている。

ここで、何故インターネットかということであるが、いくつかの利点をあげてみる。

- ①手軽に多くの人に情報発信できること。
- ②一方的な情報発信だけでなく、BBS（電子掲示板）やテレビ会議システムなどを利用した相互交流が可能である。
- ③時間的・空間的な制約を受けずに参加が可能である。
- ④気負うことなく気軽に参加できる。

コミュニケーションの拡大といっても、やはりまず身近なところから始めなければ子どもたちの興味・関心は得られにくいと思われる。そこで、まず子どもたちの進路と深い関わりをもつ、校区内の福祉的就労施設との連携を模索していこうと考えた。お互いがあるのままの姿を発信し、悩みや疑問などを率直に語り合える場としてのネットワークの構築である。現在、学校や施設単体のWEBページを持ち、個々に情報発信している例はあるが、それぞれ単体での活動であり、有機的にリンクして相互交流を図っている例はあまりみることができない。また小規模な施設では情報発信への意欲があっても、技術的・人的な制約で実現していないところも多い。

養護学校単体でこれらのことを行うことは、ノウハウや人的な面で難しいことや、ネットワーク構築の過程そのものが交流の促進となるメリットを踏まえ、実際に地域でのネットワーク構築に実績のあるNPOや大学と共に実践を始めることになった。先行する実践例として、天野らの「地域のWebコミュニティ」の構築と教育利用など¹⁾²⁾を参考にした。

2. 実践の目的と内容

実践の中心は、「養護学校を中心とした、養護学校と校区内の福祉的就労施設（作業所・授

産所等）のネットワークの構築」である。しかし、その中での狭い範囲の相互交流のみの「閉じた」ネットワークに終わることのないものにとしようと、この実践プロジェクトのキーワードを「ひろがり」と位置づけた。さらに、「夢」という言葉も盛り込んで、プロジェクトのテーマを『NPO・大学のサポートによる 養護学校「夢・ひろがりネットワーク」の実践』とすることにした。具体的には養護学校の学習成果や活動を中心に、授産所、他の学校や、NPO ボランティアなどが、Web ページや電子会議システム・テレビ会議システムを用いて情報発信をし、自分たちの活動を相互に紹介・交流し、相互理解を図ろうとするものである。

この実践では、NPO や大学のサポートを得ながら、ネットワークの構築とその運用を行うことによって、養護学校の外部の人々が養護学校に対する理解を深め、養護学校の子どもたちの視野が広がり、子どもたちが生き生きと活動できるようになることを目指した。具体的には、以下のことがらについて、アクションリサーチを繰り返しながら実践を進めていき、最終的には、養護学校の子もたちが将来に希望を持って生き生きと生活し、活動できる環境を構築することを目指した実践を行った。

- ①「夢・ひろがりネットワーク」構築・運用におけるNPO 団体と大学のサポート体制のあり方検討と実践。
- ②「夢・ひろがりネットワーク」の構築。
- ③養護学校が外部と活発に相互交流できるネットワークの利用方法の検討と実践。
- ④養護学校に通う子どもたちの社会的視野拡大の促進。
- ⑤ひろがりネットに参加している他の学校、地域やNPO などの人々の養護学校に対する理解を深める。
- ⑥養護学校と他の人々がWeb 上での交流を通して相互理解を深め、相互訪問や交流イベントなどの直接的な交流に発展することへの支援。

この実践「夢・ひろがりネットワーク」の全体像を図に示すと図1のようになる。

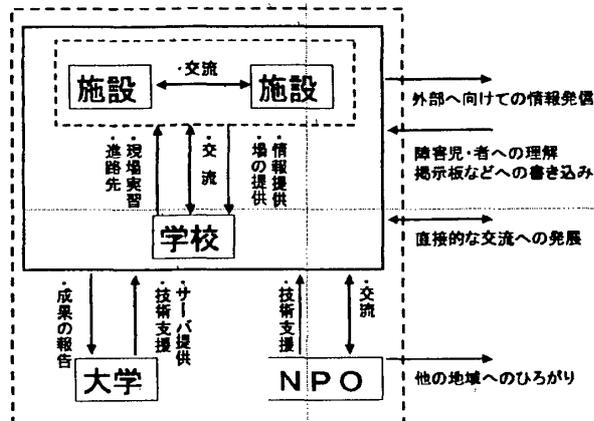


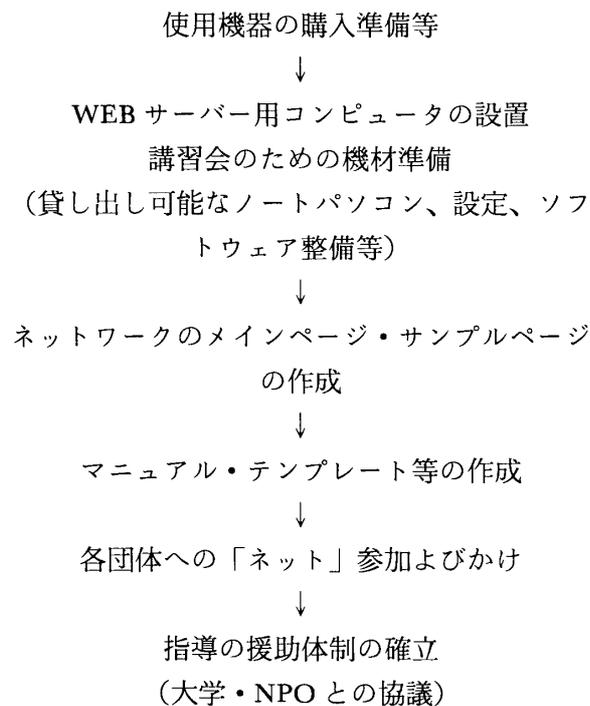
図1 「夢・ひろがりネットワーク」の概念図

3. 「夢・ひろがりネットワーク」の構築

3.1 ネットワーク構築の流れ

ネットワークの構築は以下のように進めた。このプロジェクトにかかわる三重大学・NPO・わかば学園の3団体で連絡を取り合い、適宜スタッフミーティング等を行いながら実践をすすめていった。

【準備段階】



【実践段階】

わかばにて施設ホームページ作成講習会の実施
 こどもたちに対するネット利用の指導取り組み

WEB上での交流・直接的な交流等への発展

3.2 ネットワーク構築における留意点等

- ①このプロジェクトは、三重大学・NPO・玉城わかば学園の共同プロジェクトであり、Webサーバは当面、三重大学教育実践総合センター内におく。維持・管理についてはウィルス・改竄などの被害に遭わないように細心の注意をはらう。将来的に「夢・ひろがりネットワーク」が軌道に乗り、発展すれば自主運営に持っていくのが理想である。
- ②必要な機器等は各団体所有のものを使用する他、必要に応じて21世紀未来基金による資金で準備を行う。それらの管理については、関係者で協議する。
- ③参加者がすぐにページづくりに取りかかれるようにテンプレートを作成して、簡単に必要最小限のページが作れるように配慮する。
- ④作成の意志はあるが、講習会に参加できない等の場合には作成代行も行う。
- ⑤すでに施設に既存のページがある場合は、リンクの依頼を行う。
- ⑥ホームページを見ることができない施設への対応も考慮する。例えば、掲示板などに書き込まれた情報はこまめに伝える。(印刷して配布など)
- ⑦メンテナンス、各ホームページの更新は、基本的にはホームページ作成講習会を利用して定期的に行ってもらおう。その他、随時要望に応えられるようにしておく。アップロードは、FTPを利用するが、セキュリティには細心の注意を払う。
- ⑧掲示板の設置・運営管理。メインページについてはこちらで行う。不適切な書き込みなど「荒らし」がないかチェックを怠らない。各施設のページに掲示板を置く場合には、それぞれの施設で管理者をおき対応してもらおう。

著作権や肖像権などプライバシーに関わる問題については、講習会の時に充分周知徹底をはかっておく。また、こちらでチェックして疑問があれば確認を怠らないようにする。

4. 実践の記録

4.1 参加対象施設への呼びかけ

対象となる校区内の作業所等にはまず、直接接する機会が多い進路担当教員から声かけを行い、その上で案内文書を送付した。パソコンの経験がない等の理由で参加に消極的になっている場合もあったため、筆者が直接出向いてすでにできあがったページを見てもらったり、説明を行うことにより、参加して下さったところもあった。また、わかば学園在校生・卒業生やその保護者にも呼びかけ、参加を得ることができた。

参加者には、ホームページ作成の資料・材料として以下のようなものを準備していただいた。

写真 施設外観・中の様子、作業風景等（肖像権に注意）、生産品
施設の沿革、連絡先住所、従事者のことば等、年間行事計画、近況報告、お知らせ
入所案内、ボランティア募集、行事などへの参加要請、地図

表1 参加者の準備物

4.2 支援者について

ホームページ作成支援にあたる支援者として、ホームページ作成支援の経験やノウハウを持っている三重大学・NPO セラフィックとともに、わかば学園職員からも募集した。「ワープロで文書が作成できる程度」を条件に、ホームページ作成未経験の方も可としたところ、興味を示して参加してもらうことができた。普段接する機会の多い者が支援者に加わることで、参加者同士の交流がよりスムーズになるとともに「一緒につくっていく」スタイルをより鮮明にする上で大きな効果が得られた。また、ホームページ

作成代行の支援も快く引き受けてくれた。

4.3 ホームページ作成・交流会

呼びかけに応じてくれた作業所などの団体や在校生・卒業生やその保護者を対象に、ホームページ作成・交流会をおこなった。作業所からは主に指導員の方の参加であったが、車イスで参加して下さった障害者の方もあり、思いがけない交流の場面もみられた。ホームページ作成ソフトウェアは、初心者にも使い勝手の良いと思われる IBM 社のホームページビルダーを使用した。

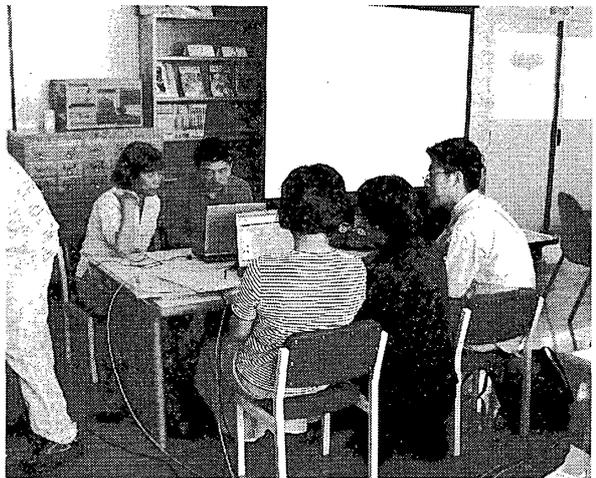


写真1、2 ホームページ作成・交流会の様子

参加者が毎回異なることや、支援者が多く得られたことで、各自持ち寄った資料をもとに支援者と一緒になって考えながら作成する方式をとることができた。このことにより、支援する側・される側の交流が促進されるメリットが生

まれたように感じられる。

作成・交流会のタイムスケジュールは、長すぎず、短すぎずということを考慮して、午前中2時間、1時間の食事休憩をはさんで午後2時間を基本にした。毎回、午後のスタート時には午前中の成果を発表し、鑑賞し合う場を設定することで刺激を受け、午後からの制作意欲の向上をはかることができた。

作成・交流会の最後には、掲示板を利用して作成・交流会の感想を記入していただいた。

【参加者の声から】（掲示板より）

「6月8日の感想です。」

今日は、HP作成講座ということで勉強させて頂き、ありがとうございました。皆さんのページがすばらしく、大変勉強になりました。今後は、独自のHPを立ち上げられるようがんばります。本日の講師の先生方、ありがとうございました。

「初めてのホームページ作成に参加して」

少人数で、和気藹々で勉強でき、また、すぐにサポートしてくださる先生方が親切に教えて下さいました。有り難うございます。このような企画があればまた参加させて頂きたいと思ひます。

「ありがとうございました。」

先日の講座はとてわかりやすく、パソコン1年生の私には助かりました。私と同じ悩みをもった人達との交流や情報交換ができるといいなと考えています。

「初めてのホームページ作成。」

なかなかいいアイデアが浮かばなくて、作品としてはちょっと物足りない感じ、ごめんなさい!今度は自分のうちのかわいい娘犬たちのホームページにも挑戦したいです。頑張るぞー!

4.4 地域のひろがり求めて

半年間に渡りわかば学園に於けるホームページ作成・交流会の回を重ねてきたが、より広範

囲に活動をおこないたいと考えていたところ、偶然筆者の知人が「津市チャレンジネットワーク」を発足させたという新聞記事を見つけた。早速、連絡をとりホームページ作成支援等で協力・連携がとれないかどうか打診したところ快諾を得ることができ、津市においてホームページ作成・交流会を開催する運びとなった。

さらに、NPOセラフィックと「夢・ひろがりネットワーク」の共催で四日市市においてイベント交流会を行った。ホームページ作成・交流会だけではなく、バンド演奏などの催しを通じて参加者の輪を広げるとともに、広報活動も行うことができた。同様に、「津チャレンジネットワーク」主催のイベントにも参加し、直接交流の場をひろげることができた。



写真3 四日市でのイベント

4.5 実践に関する資料等

【ホームページ作成・交流会の実施日・場所】

| | | |
|-----|-------|----------------|
| 02年 | 5/25 | 玉城わかば学園 |
| | 6/8 | 玉城わかば学園 |
| | 7/6 | 玉城わかば学園 |
| | 10/19 | 玉城わかば学園 |
| | 11/23 | 津リージョンプラザ |
| | 12/25 | 三重大学(含:スタッフ研修) |

【交流・イベントなど】

| | | |
|-----|-------|------------------------|
| 02年 | 11/9 | わかば学園学校祭 |
| | 12/15 | 三重県鈴鹿山麓研究学園都市センター(四日市) |
| 03年 | 5/11 | 津リージョンプラザ |

【参加人数の推移（累計）】

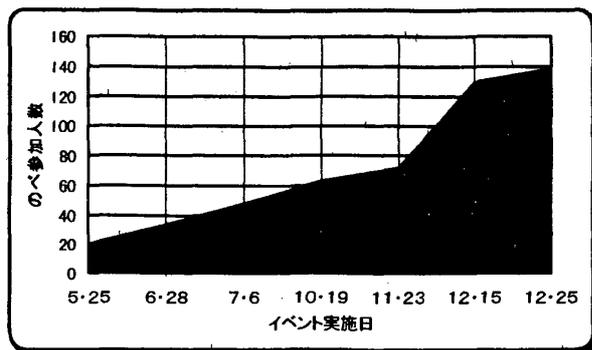


図2 参加人数の推移（累計）

【主な使用機器等】

<ハードウェア>

- ノートパソコン・・・10台
- デスクトップ（サーバー）・・・2台
- デジタルカメラ・・・3台
- イメージスキャナ・・・1台
- ルーター・・・1台

<ソフトウェア>

- ホームページビルダー
- Dreamweaver Fireworks
- WINDOWS2000 server 他

5. わかば学園内での取り組み

5.1 進路学習の資料として利用

わかば学園高等部の進路学習の一環として、それぞれの地域の作業所を知る目的で授業の中で作業所のホームページを見る機会を持った。生徒は、自分に直接関係のあるところには、特に興味を持って真剣に見ていた。また本校は校



写真4 作業所のページを見る生徒

区が広いため居住地以外の作業所についてはなかなか訪れたり情報を得るといった機会が少ないことや、先輩たちの様子を知ることができることもあり、それらのページも熱心に見入っていた。

5.2 学校祭での広報活動

わかば祭（玉城わかば学園の学校祭・・・一般公開され、毎年多数の来校者がある）において、進路コーナーの中にホームページ閲覧用パソコンを設置し、多くの来校者に実際に「夢・ひろがりネットワーク」のページを見てもらうことができた。



写真5 学校祭進路コーナーにて

6. アドバイスシートより

本実践は21世紀未来基金の助成を受けて行うことができた。他の助成を受けた団体と共に報告会が行われた際に、参加者からアドバイスシートをいただいた。客観的な評価としていくつかを引用しておきたい。

障害者の方々の社会参加という視点からコンピュータを用いている点は興味深い。人と人とのつながりの重視というのがよかった。

インターネットを使うことによって知的障害を持つ人々の社会的視野が広がるというのはもっともだと思う。素晴らしいことだと思う。

現実社会に障害者も居るが、その理解が未だ不十分である。この取り組みで理解が高まり、お互いに成長していくことができると良い。

参画型であり、又WEB上で参加者を増やせるのが良いと思う。知的障害者の中、在宅者との関係をどのように持つかが課題だと思う。

健全児・者への程度理解を深めることができるか、ただ大変だな、かわいそうだなで止まらず自分に今何ができるのか考え行動させるのが大変なことだと思う。

地道な活動を続け、広がりよりも継続に重点を置いてください。その継続性が、広がりを持つことにつながります。がんばってください。

7. おわりに

02年から03年にかけて1年あまりの実践を行ってきた。成果として、7回のホームページ作成・交流会を持ち（のべ140名）参加者間の交流を促進することができたことや、WEB上での交流にとどまらず、イベントなど直接交流の場を持つことができたこと等が挙げられる。

ただ、現状では「夢・ひろがりネットワーク」の器ができた段階であり、これから知的障害児・者が利用しやすいWEBページ（掲示板なども含め）の運用や形態について改善を図っていく必要がある。そのことにより、小さなコミュニティと大きくひろがるコミュニティをうまく調和させていきたい。また、様々な活動を通して社会全体に障害者理解を求めていくことがこのネットワークの大きな目的であることを忘れてはならない。この原稿を書いている最中にもリンクの依頼とホームページの更新依頼があった。一過性の活動では効果がうすいので、今後の発展・継続を目指していきたい。

わかば学園の生徒も現状では受け身の参加となってしまうっており、見直しをしていく必要がある。例えば、メールはまず校内でのやりとりから始めながら、他校等との交流を求めていきたい。また、簡易なホームページ作成ソフトを使用して、自分たちのページをつくり、発信することで積極的に「夢・ひろがりネットワーク」に参加できるような状況にしていきたい。

最後に、この実践に支援者として協力していただいたNPOセラフィック（代表、福岡春実）、わかば学園職員、三重大学院生の方々と、趣旨に賛同し参加してくださった個人・団体の方々に謝意を表して報告を終える。

【付 記】

本実践は21世紀未来基金 (<http://www.nttei.co.jp/fund21/>) の助成を受けた。

参考文献、関連HP

- 1) 天野昌和、須曾野仁志：三重県四日市市桜地区における「地域のWebコミュニティ」の構築と教育利用 三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要第21号 141-150 2001. 3
- 2) 天野昌和、下村勉：交流を重視したまちづくり親子パソコン講座の開発 日本科学教育学会東海支部研究会研究報告集61-66 2002. 6
- 3) 伊藤真二：「学校を中心とした福祉施設ネットワークの構築」 2001年度後期内地留学研究報告書 2002. 3
- 4) 21世紀未来基金ホームページ <http://www.nttei.co.jp/fund21/>
- 5) 「夢・ひろがりネットワーク」ホームページ <http://cerpte13.edu.mie-u.ac.jp/hirogari/>

夢・ひろがりネットワーク

夢・ひろがりネットワークへようこそ

「夢・ひろがりネットワーク」は、三重県立桑名高等学校はまわかしほ園とその校区内にある作業所や授産所など、種々の就労施設が一体となってコミュニケーションをひろげていくと始めたものです。
 相互の連携というハンディはありますが、それぞれがそれぞれの場所での一生懸命に学習の作業、そして余暇活動に取り組んでいます。そんな私たちのことをたくさんの人たちに知ってもらいたいと思います。
 どうか、実際に各ページをのぞいてみてください。そして、できればご意見、ご感想なども寄せたいと思います。
 それでは、ごゆっくりどうぞ...

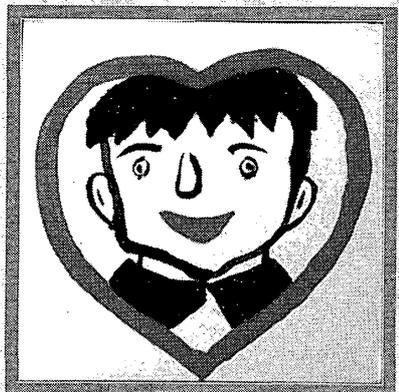
| | | |
|------------------|----------------|---------------------|
| 夢・ひろがりネットワークについて | 新着情報 | 各施設紹介のページ |
| 施設マップ | 玉城わかば学園のホームページ | リンク集 |
| チャレンジネットワーク | みんなの掲示板 | ゲストブック 訪問の記念にどうぞ |

最終更新
 2002年5月 最終ページを修正しました。
 戻るボタン
 家！当HP作成講習開催！
 最新情報をチェック！

写真6 「夢・ひろがりネットワーク」のメインページ

TAKAPPI ROOM

夢・ひろがりネットワーク



- 作品
- スポーツ
- 家族

写真7 在校生・保護者によるページ

私たちの『工房 やまの風』

〒615-0034
 三重県津市小原
 TEL 0569-666666

| | |
|-------------|--------|
| 作業所の目指すもの | アクセス |
| 作業所で行っている仕事 | お知らせ |
| お楽しみ・行事予定 | 作品 |
| 県庁より | メインページ |
| 作り手 | |

写真8 作業所によるページ (1)

共同作業所

末芳園



2002年7月6日作成

〒519-0416
 三重県度会郡玉城町
 TEL&FAX

| | |
|--------|---------------|
| 末芳園の歩み | 主な業務 |
| 年間事業活動 | がんばってまーす！ 写真集 |

写真9 作業所によるページ (2)

小規模授産施設



| | |
|--|---------|
| | 所在地 鳥羽市 |
| | TEL |
| | 代表者名 |

海の子と書いて「うみっこ」と読みます。

| | |
|---------|-----------|
| アクセス | 作業内容・作品 |
| 作業所について | メンバー・スタッフ |
| 年間行事 | リンク |

写真10 作業所によるページ (3)

ようこそ小規模授産施設工房そみんへ

こんにちは、三重県度会郡二見町にある、小規模授産施設工房そみんです。

〒619-0602 三重県度会郡二見町
 TEL (0590) FAX

連絡先 〒619-0602 三重県度会郡二見町 工房そみん
 TEL (0590) FAX

メニュー

- 施設概要 製品紹介
- 作業風景 工房そみん行事
- 目録

平成14年6月8日(土) 11版作成
 最終更新日 平成14年7月6日(土)

写真11 作業所によるページ (4)